戦前の埼玉県における小学校教員検定

文学研究科教育学専攻博士後期課程修了
古川　　修

キーワード：初等教育、小学校教員、教員養成、教員検定

要旨

本研究は戦前期の埼玉県における、教員検定による小学校教員免許取得状況について文部省年報及び埼玉県統計書から明らかにし考察を加えるものである。その結果、以下のことが明らかとなった。第一に師範学校卒業生の増加とともに試験検定は難易度を増した。そのため有資格教員供給量は試験検定から次第に無試験検定に移っていった。第二に無試験検定の中でも合格者が大量に見られるのは、高等女学校やその補習科を修了することで小専正や小本准の免許状を取得できるようになってからである。しかし、その大量さから実際に、教職に就くことができたかどうかははなはだ疑問である。第三に小本正では試験検定合格率は4.6%と低く、無試験検定と合わせても合格者数は少ない。検定制度により、キャリアアップの機会が開かれているとは言いながら、免許状取得の状況は厳しく、小本正の免許所持者の9割弱を師範学校卒業生が占め、小学校教員社会は師範学校卒業生を頂点とする構成が堅持されたと言えよう。

目次

はじめに
1. 学級数と教員数及び教員構成の推移
2. 有資格教員の供給
3. 検定合格者の推移
4. 検定制度の活用状況
おわりに

はじめに

戦前日本における教員養成の中心は師範学校であった。中等学校教員については高等師範学校が担い、小学校教員については道府県の師範学校が養成した。しかし、いずれの場合も不足する教員数をまかないきれず、検定試験制度を用いて大量の有資格者を輩出するようになった。中等学校の教員検定については文部省が実施機関となり、無試験検定、試験検定の制度を整えた。無試験検定では官立や私学の学校を指定校、許可校と認定し、その卒業生を有資格者とするなどした。試験検定では「文検」と略称でいわれる中等学校の教員検定試験を全国的な規模で実施した。それに対して小学校教員の検定試験制度は文部省の基本的な法令の下に、道府県がその実情に応じて実施細則を作り、運用するという形で進められた。実施の詳細については道府県に任されていた。そのため、中等教員に関する「文検」では学科目ごとにその特徴が現われるのに対して、小学校教員検定については道府県ごとの検討が必要になってくる。

中等教員にキャリアアップするための「文検」受験資格は中学校、高等女学校などの卒業生の他に、小学校教員免許状所持者にも開かれていた。小学校教員免許状を取得するための小学校教員検定の受験資格は、無資格教員である代用教員となることのできた高等小学校卒業に対しても開かれていた。すなわち、キャリアアップの階段は小学校教員検定の専科教員や准教員受験から始まり、可能性は連続しているとも言えるのである。

戦前の教員養成制度史の研究では牧昌見（1971）[1] の『日本教員資格制度史研究』が挙げられる。明治期に初等教員、中等教員養成制度が全国的に確立されていく過程の中で、有資格者の量的不足を補う必要から教員検定制度が採用されたことを明らかにしている。教員養成史において正式な養成ルートである師範学校史研究に対して、傍系的な資格取得ルートである教員検定に関する研究の必要性を今後の課題として取り上げたのは船寄俊雄（1994）[2] である。当時、小学校教員検定試験に関する研究は少なく、佐竹道盛（1988）[3] の発表は数少ない研究の一つである。井上惠美子ら（2006）[4] は宮城県、兵庫県、群馬県、東京府、静岡県の事例等の検討を行い、無試験検定制度の果たした役割は大きいことや、初等教員の場合は、中等教員の場合のように、直接養成・無試験検定・試験検定という3つのルートに単純にまとめることができない多様な実態があること、さらには道府県によってその養成の状況は違っていることなどが整理された。その中の一部にもなっている宮城県の事例を笠間賢二（2005）[5] は単独でも発表している。試験日程、試験問題、問題作成者、合格率等を明らかにし、合格の難易度の高さから教員養成講習会の役割にまで言及している。

教員養成講習会については佐藤幹男（1982）[6] や梶山雅史（1990）[7]、（2007）[8] などの研究がある。前者は師範学校に、後者は地方教育会に着目し教員養成講習を論じている。近年になって道府県の事例研究がさらに蓄積されてきてきた。主なものを挙げると宮城県、秋田県、兵庫県についてそれぞれ、笠間賢二[9]、釜田史[10]、山本朗登[11] らが継続的に成果を残し

ている。これまでの研究で指摘されている点は無試験検定制度を利用した有資格者が多かったこと、検定制度に関して教員養成講習会は大きな力を発揮したこと、養成の態様は道府県によって大きく異なることなどが挙げられる。

本研究で事例として取り上げる埼玉県は丸山剛史（2011）[12] が『文部省年報』から集計した全国的な比較によれば、小学校本科正教員の合格者数は無試験検定、試験検定双方とも全国の平均以下である。尋常小学校本科正教員及び小学校専科正教員の合格者数は無試験検定、試験検定双方とも全国的には高い位置を占めている。つまり、師範学校卒業生が多くを占める小学校本科正教員と教員検定合格の有資格者とは棲み分けができているとも言えよう。埼玉県における小学校教員検定による合格者数の変遷を明らかにして道府県に関する事例研究の一端を担おうとするものである。

なお、本稿では小学校教員免許状の種類を以下の通り略して表記する。小学校本科正教員：小本正、尋常小学校本科正教員：尋本正、小学校専科正教員：小専正、小学校本科准教員：小本准、尋常小学校本科准教員：尋本准である。

1.　学級数と教員数及び教員構成の推移

教員の需要と供給の関係はどうであったのか。児童数だけでは単純に予想が難しいので、小学校は学級担任制をとることから、学級数と有資格教員数との比較を図示した。当然ながら複式学級や二部制等も考慮に入れれば一致することはないと思われるが、一つの目安とはなるであろう。図1は埼玉県統計書を集成した新編埼玉県史別編から作成したものである。有資格教員数は本科正教員と専科正教員及び准教員を含めた数である。代用教員は無資格教

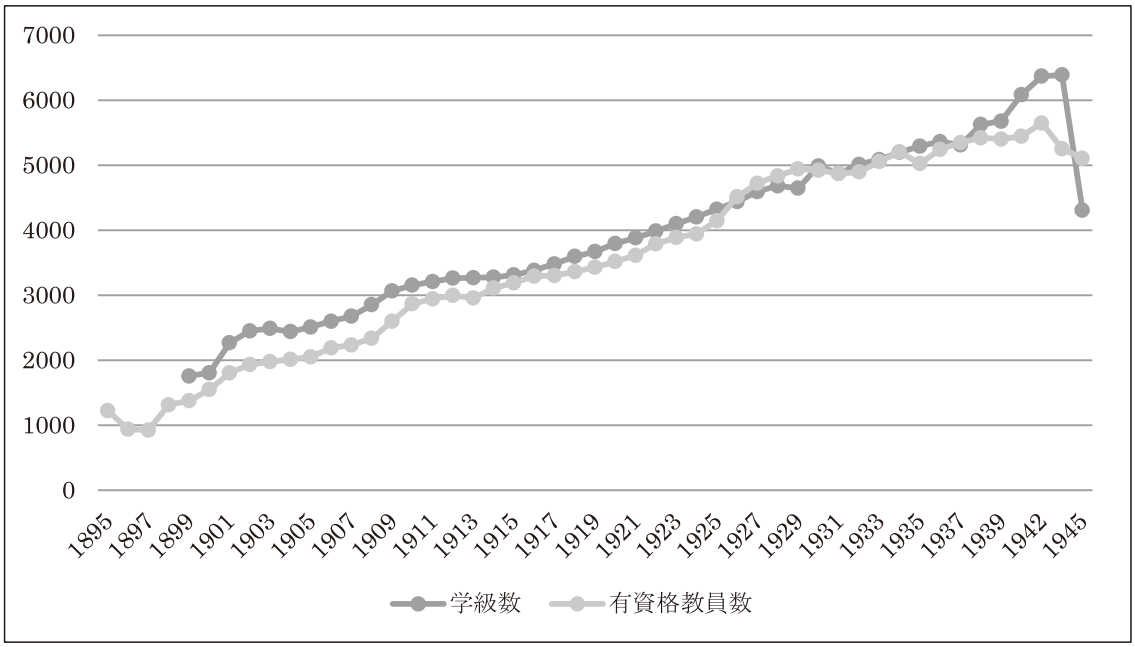

図1　学級数と有資格教員数の変化　　新編埼玉県史＜別編5＞統計から作成

員である。

有資格教員数が学級数を超えたのは1926（大正15）年からの4年間、及び1934（昭和9）年、1937（昭和12）年と1945（昭和20）年である。それ以外はすべて下回っている。つまり、有資格教員数の不足は常態化していたのである。不足分は代用教員で補うため、代用教員の数だけ不足していたと言うことができよう。少ないときで250名ほど、多いときは戦時下で1000名を遙かに超えている。

学級数の増加とともに有資格教員数も増加傾向にあるが、後述する有資格者の供給数から見ると、その充足率にさほどの変化がない。つまり、供給数が増加しても何らかの理由で教職を離れる教員も多かったことが明らかである。

次に、教員の構成についてみてみよう。正教員や准教員及び代用教員などが教員全体の中に占める割合はどのように変化してきたのか。それが図2である。

これによれば、本科正教員が教員全体の70％を越えるのは1914（大正3）年以降である。1909（明治42）年以前は年度により教員の構成にばらつきが見られるが、それ以降は穏やかな変化である。本科正教員では1908（明治41）年からの義務教育6カ年への延長の影響が見られ、不足が大きくなった。その後持ち直し、1918（大正7）年と1931（昭和6）年と2つのピークが見られ、その後の減少期を迎えている。専科正教員は少しずつ増加傾向にあり、准教員は減少傾向にある。代用教員は1929（昭和4）年が最も割合の少ない年度で4.9％であった。1926（大正15）年から1936（昭和11）年までの10年間を除けば10％を越えている。

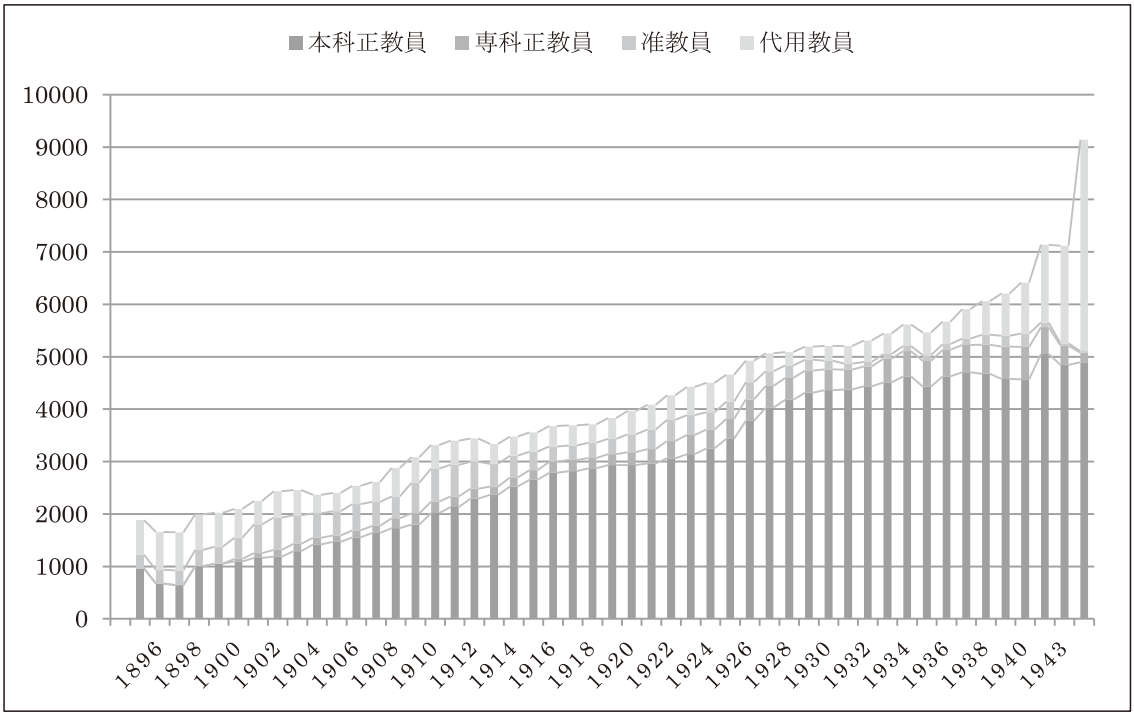

図2　教員構成の変遷　　**新編埼玉県史＜別編5＞統計から作成**

2. 有資格教員の供給

小学校教員免許状取得者は、資料の比較ができる1895（明治28）年から1940（昭和15）年までの45年間で43,628名である。直接の養成機関である師範学校卒業生は7,537名（17.3％）である。検定制度を利用した取得者は36,091名（82.7％）に上る。内訳は試験検定が11,405名（26.1％）、無試験検定が24,686名（56.6％）である。

図3は文部省年報及び埼玉県統計書から作成した（別表1）小学校教員免許取得者数の推移を図示したものである。師範学校の供給数を見てみると、1903（明治36）年から女子師範学校も卒業生を輩出し始めたため、100名を越えるようになった。1922（大正11）年から1932（昭和7）年までの10年間は200名を超えている。1924（大正13）年からの6年間は最も多くの卒業生を輩出している時期で、その中でも300名を超える年が5回もある。1927（昭和2）年は最多となる410名の卒業生を出した。

また、試験検定による取得者の推移を見てみると、1900（明治33）年から1902（明治35）年までの3年間で、それぞれ400名、552名、459名の合格者を出している。1915（大正4）年までは総数が500名前後で推移し、その過半数を試験検定合格者が占めていた。師範学校の供給数が増加に転じる以前は試験検定が供給源となっていた。特に1909（明治42）年は677名の合格者を送り出し、その前年から実施された義務教育6年制移行による教員不足解消のため対応を迫られた結果とも言える。1928（昭和3）年、1929（昭和4）年にそれぞれ401名、403名を記録した後は100名に満たない年もあり、試験検定合格者は師範学校卒業生よりも少なくなっている。

1916（大正5）年から総数が600名を越える取得者になるが、その要因は無試験検定合格者

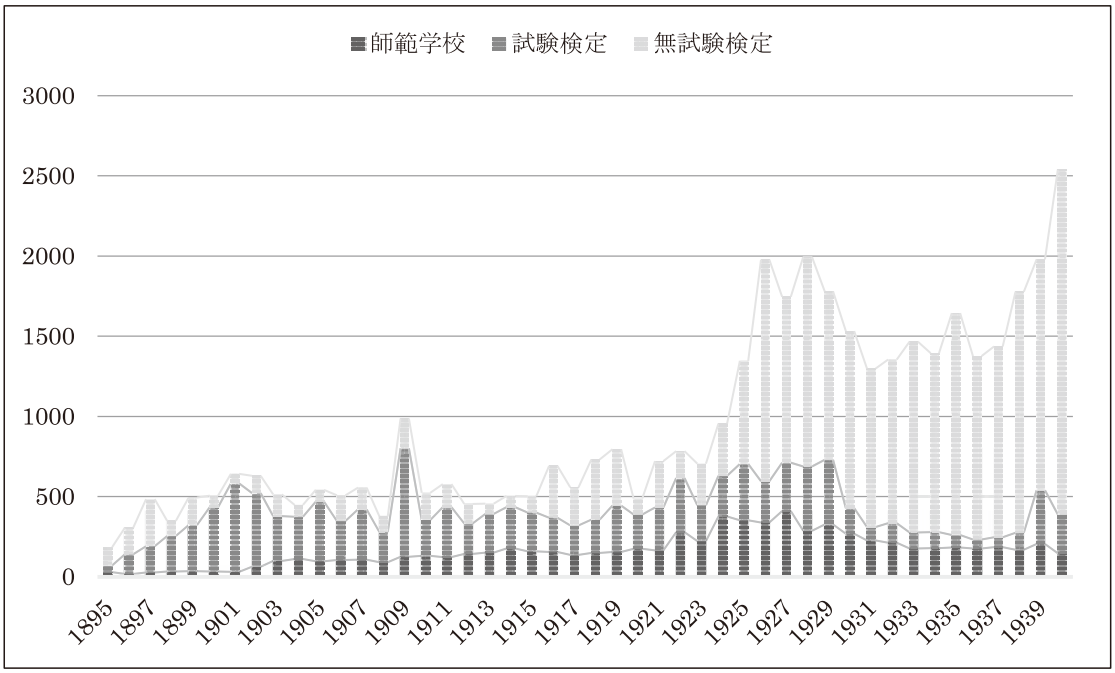

図3　小学校教員免許状授与数の推移　　文部省年報及び埼玉県統計書から作成

の増加によるものである。特に1926（大正15）年には初めて1,000名を越え、それ以降の小学校教員免許取得者の大量輩出の機能を担った。

3.　検定合格者の推移

図4は文部省年報及び埼玉県統計書から作成した別表2及び別表3の各合格者数の推移を図示したものである。

1909（明治42）年に尋本准の試験検定で563名の合格者を出した。これはその前年1908（明治41）年に義務教育6年制に延長になったことによる教員不足解消のための一時的措置と思われる。尋本准の試験検定は1905（明治38）年まで200名前後の合格者を出した。この時期の有資格者確保は試験検定による尋本准でまかなっているようである。1918（大正7）年から1922（大正11）年までの5年間は100名を越える合格者を出したが、その前後の時期では尋本正の試験検定合格者の方が多数を占めている。1939（昭和14）年には尋本准は例外的に169名の合格者を出した。

また、無試験検定では1925（大正14）年に小専正の258名の合格者を出した後、1942（昭

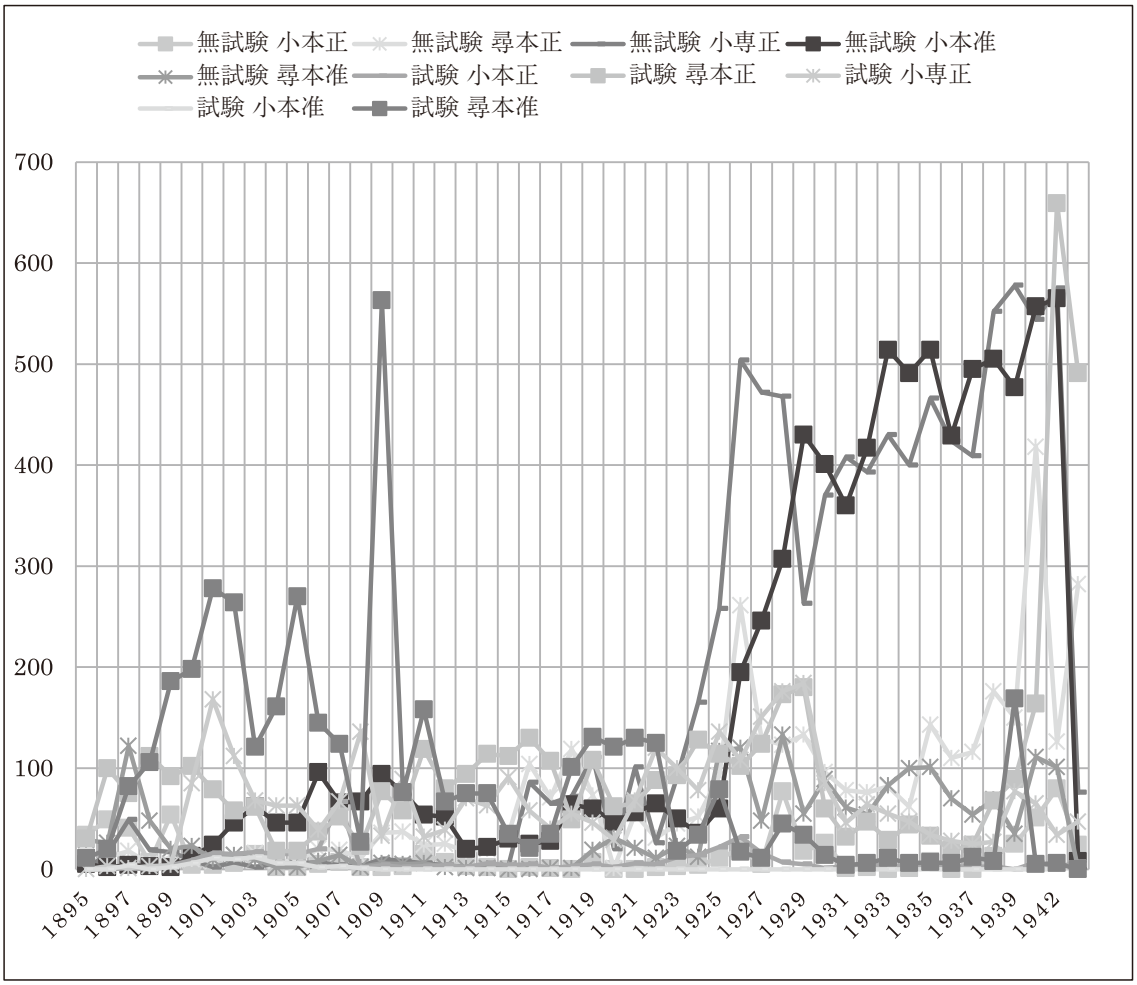

図4　試験検定、無試験検定合格数の推移　　文部省年報及び埼玉県統計書から作成

和17）年までに少ない年でも263名という、300から600名弱で推移した。小本准も1926（大正15）年に195名を出して以降、小専正と同様に大量合格者を出している。尋本准も1925（大正14）年以降100名を越える年が7回ほどあった。このような大量合格者の出現で1925（大正14）年から無試験検定は試験検定を逆転し飛躍的に拡大した。一方の試験検定合格数は500名に満たない数で推移した。

急激な合格者の増大は1926（大正15）年から顕著になってきている。又、女子が圧倒的に多い。これに関連して1918（大正7）年2月20日「検定内規改正ノ件通牒」[13]　を内務部長が両師範学校長及び各郡長宛に出している。この文書には無試験検定標準が添付されており、以下の通りである。

無試験検定標準

第一章　無試験検定

第一條　無試験検定標準ヲ定ムルコト左ノゴトシ

一、小学校令施行規則第百七条第四号及第五号ニ該当スル者

右小学校准教員免許状

一、中学校高等女学校卒業者ニシテ満二年以上（本県ニ於テ）小学校教員ノ職ニ在リタル者又ハ中学校卒業者ニシテ満一年以上（本県ニ於テ）小学校ノ教員ニ従事シ成績特ニ佳良ト認メタル者　但シ後段ノ者ニ対シテハ中学校在学ノ成績ヲ参酌シ又特ニ試問ヲ行フ

右尋常小学校本科正教員免許状

一、大正五年以後埼玉県立高等女学校補習科ヲ修了シタル者

右尋常小学校本科正教員免許状及小学校裁縫科専科正教員免許状

一、日本体育会体操学校（普通科高等科）卒業者

右小学校体操科専科正教員免許状

一、甲種農学校卒業者ニシテ満二年以上（本県ニ於テ）小学校教員ノ職ニ在リタル者又ハ満一年以上（本県ニ於テ）小学校ノ教育ニ従事シ成績特ニ佳良ト認メタル者及本県農事試験場甲種見習生ト為リ本県師範学校ニ於テ教育科ヲ兼修シタル者

右小学校農業科専科正教員免許状

これをもとにして、粕壁実科高等女学校補習科修了生に対して以下のように追加認定された。

小学校教員検定内規第一条ニ左記ノ通追加致候条此段及通牒候也

記

一　南埼玉郡粕壁町立粕壁実科高等女学校補習科ヲ修了シタル者

但シ大正七年度以降ノ卒業ニシテ補習科在学中ノ各学科得点平均六十点以上ノ者ニ限ル

右小学校裁縫科専科正教員免許状

以上のように、第一条の第一項では中学校、高等女学校の卒業資格で小本准を無試験検定で取得できることが規定され、大正後期には高等女学校補習科修了生は尋本正と裁縫科の小専正、実科高等女学校補習科修了生は裁縫科の小専正免許状を無試験検定によって取得可能な状況となっていたのだった。1925（大正14）年では12校だった高等女学校の数が4年後の1929（昭和4）年には20校にまで増加している。生徒数も約3,800名から6,100名を越えるほどに増加した。高等女学校の教育課程では男子の中学校と比して家事、裁縫等に重点が置かれていた。また、教育の科目もあり、小学校教員免許状を無試験検定で取得できるよう配慮もされていた。このような状況で爆発的に女子の無試験検定合格者が増加したものと考えられる。しかしながら、実際に教職に就いたのかどうかは不明である。井上えり子（2009）[14]は文検家事科合格者について、必ずしも教職へ結びつかなくとも、「女子高等教育機関と同等の教育資格認定制度として機能していた」と述べている。地域における女子教育機関の終了時の副産物としての意味合いも感じられる小学校教員免許取得である。

4.　検定制度の活用状況

1895（明治28）年から1943（昭和18）年までの検定による免許取得者の合計で比較したものである。表1は免許種別に試験検定と無試験検定及び男女別に割合を見たものである。試験検定では尋本正と尋本准が多く、小本正、小専正、小本准は無試験検定が多い。特に小本准はほぼ無試験検定による取得者で占められている。

小本正は試験検定も無試験検定も双方とも男子が多く、合わせて89.1％になる。しかしながら合計でも1029名であり、1895（明治28）年から1940（昭和15）年までの師範学校卒業者

表1　免許種別、男女別の合格者数

	試験検定				無試験検定				計				合計
	男		女		男		女		男		女		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人
小本正	309	80.5	75	19.5	608	94.3	37	5.7	917	89.1	112	10.9	1029
尋本正	2572	53.7	2222	46.3	1012	28.4	2554	71.6	3584	42.9	4776	57.1	8360
小専正	1499	46.7	1713	53.3	943	11.1	7567	88.9	2442	20.8	9280	79.2	11722
小本准	62	92.5	5	7.5	1334	16.2	6898	83.8	1396	16.8	6903	83.2	8299
尋本准	3394	80.8	804	19.2	554	29.6	1317	70.4	3948	65.1	2121	34.9	6069
計	7836	61.9	4819	38.1	4451	19.5	18373	80.5	12287	34.6	23192	65.4	35479
男女計	12655				22824				35479				

数の7,537名と比較してみると少ない。埼玉県においては小本正を師範学校卒業生が約9割弱と独占している状況である。研修を積み重ね検定制度を活用して小本正へのキャリアアップを進めることのできた教員は多くはなかったと言えよう。

試験検定では平均の合格率が最も低い4.6％（別表2）、無試験検定でも59.1％（別表3）だった小本正に比して、尋本正はそれぞれ16.5％（別表2）、87.0％（別表3）であり、合格者も8,000名を越えている。表1から、尋本正の男子3,584名、女子4,776名で、男子は71.7％（3,584名中2,572名）が試験検定で合格、女子はほぼ半数ずつである。合格率の高い無試験検定にこだわらず、試験検定にも挑戦しつつ研修を積み重ね正教員へのキャリアアップを目指したものと考えられる。

小専正と小本准は前節でも触れたように、高等女学校卒業や補習科修了と同時に免許状も取得したものと考えられる。

図5は試験検定の合格率の推移である。全体的に1903（明治36）年までと1924（大正13）年とで3つの時期区分ができる。1903（明治36）年は女子師範学校の卒業生が輩出され始めた年である。比較的合格率は高い時期である。1924（大正13）年からは師範学校の学級増による卒業生が増えた時期と一致している。つまり、山本朗登（2014）[15] が兵庫県の事例で示唆しているように、直接の養成機関である師範学校からの供給数が少ないときは試験検定の合格率が比較的高く、増加してきた時期には合格率を下げて、合格者の質を維持しようという狙いが見える。

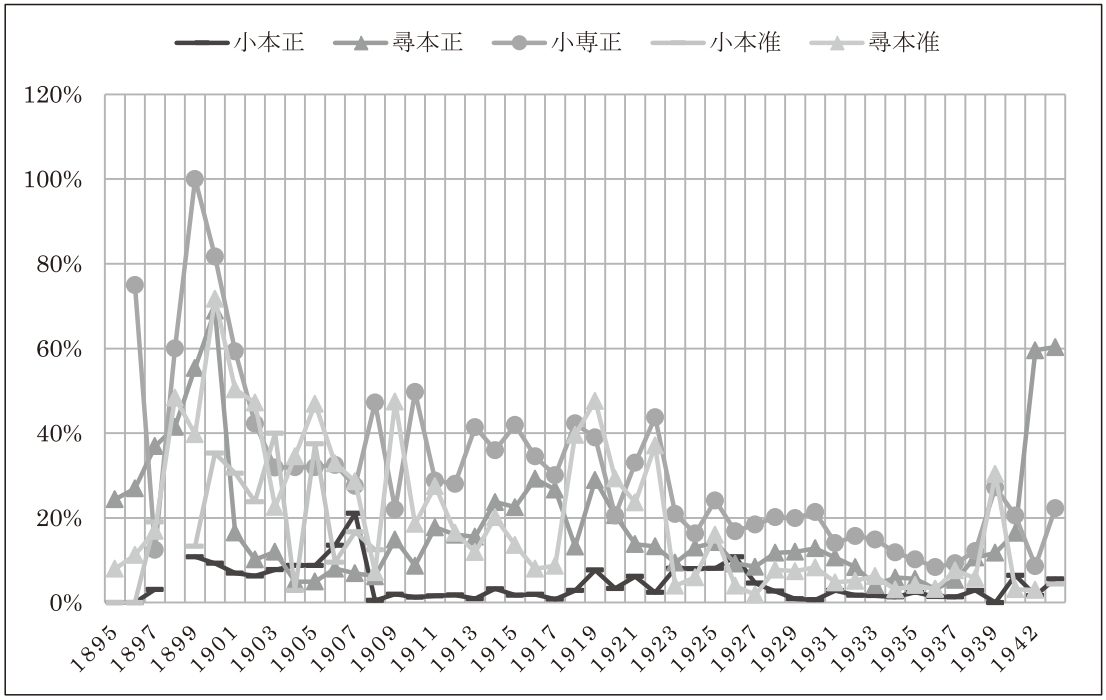

図5　試験検定の合格率の推移

おわりに

埼玉県の事例から明らかになったことは、以下の通りである。

第一に師範学校卒業生の増加とともに試験検定の合格率は低下し、難易度を増したと推測される。教員の質を確保する意図も感じ取れるとともに、有資格教員の大量供給源は試験検定から次第に無試験検定に移っていった。第二に無試験検定の中でも合格者の大量出現が見られるのは、小専正や小本准を取得する女子である。その理由は高等女学校やその補習科を修了することで小専正や小本准の免許状を取得できるようになったことによるものと考えられる。しかし、その大量さから実際に、教職に就くことができたかどうかははなはだ疑問である。免許状取得には別の動機も存在していたのではないだろうか。第三に小本正では50年弱の試験検定を通して、合格率が5％以下と低いことや、無試験検定と合わせても1000名を越える程度で、免許所持者の9割弱を師範学校卒業生が占めていることなどから、検定制度による取得を制限していたと見られる。検定制度により、キャリアアップの機会が開かれているとは言いながら、免許状取得の状況は厳しく、小学校教員社会は師範学校卒業生を頂点とする構成が堅持されたと言えよう。

別表1　小学校教員免許取得者数

	師範学校		試験検定		無試験検定		計
1895	30	16%	41	22%	114	62%	185
1896	18	6%	123	40%	166	54%	307
1897	28	6%	163	34%	293	61%	484
1898	33	9%	221	64%	94	27%	348
1899	35	7%	288	58%	171	35%	494
1900	34	7%	400	79%	73	14%	507
1901	31	5%	552	86%	60	9%	643
1902	64	10%	459	73%	107	17%	630
1903	99	19%	280	54%	136	26%	515
1904	111	25%	263	59%	74	17%	448
1905	97	18%	372	69%	74	14%	543
1906	105	21%	243	48%	161	32%	509
1907	107	19%	313	56%	136	24%	556
1908	90	24%	188	50%	98	26%	376
1909	124	13%	677	69%	186	19%	987
1910	130	25%	225	43%	169	32%	524
1911	123	21%	312	54%	144	25%	579
1912	143	31%	190	42%	122	27%	455
1913	151	33%	241	53%	65	14%	457
1914	176	35%	258	51%	70	14%	504
1915	159	32%	242	48%	101	20%	502
1916	154	22%	214	31%	323	47%	691
1917	137	25%	183	33%	238	43%	558
1918	148	20%	208	28%	375	51%	731

1919	155	19%	290	36%	350	44%	795
1920	174	36%	214	44%	100	20%	488
1921	164	23%	269	37%	288	40%	721
1922	278	35%	338	43%	168	21%	784
1923	223	32%	223	32%	260	37%	706
1924	377	39%	254	27%	325	34%	956
1925	353	26%	351	26%	643	48%	1347
1926	338	17%	259	13%	1381	70%	1978
1927	410	23%	302	17%	1034	59%	1746
1928	286	14%	401	20%	1308	66%	1995
1929	327	18%	403	23%	1050	59%	1780
1930	268	17%	160	10%	1104	72%	1532
1931	226	17%	85	7%	987	76%	1298
1932	213	16%	121	9%	1020	75%	1354
1933	177	12%	99	7%	1191	81%	1467
1934	178	13%	100	7%	1117	80%	1395
1935	182	11%	79	5%	1383	84%	1644
1936	177	13%	56	4%	1143	83%	1376
1937	184	13%	63	4%	1190	83%	1437
1938	168	9%	106	6%	1504	85%	1778
1939	205	10%	335	17%	1440	73%	1980
1940	147	6%	241	9%	2150	85%	2538
計	7537		11405		24686		43628
割合		17.3%		26.1%		56.6%	

別表2　試験検定の推移

	小本正			尋本正			小専正			小本准			尋本准		
	出願	合格	%	出願	合格	%	出願	合格	%	出願	合格	%	出願	合格	%
1895	23	0	0	123	30	24	0	0		2	0	0	138	11	8
1896	18	0	0	371	100	27	4	3	75	6	0	0	178	20	11
1897	32	1	3	203	75	37	8	1	13	21	4	19	484	82	17
1898	0	0		270	112	41	5	3	60	0	0		219	106	48
1899	37	4	11	166	92	55	4	4	100	15	2	13	468	186	40
1900	97	9	9	148	102	69	104	85	82	17	6	35	276	198	72
1901	230	16	7	477	79	17	283	168	59	36	11	31	552	278	50
1902	239	15	6	569	58	10	265	112	42	42	10	24	559	264	47
1903	219	17	8	517	62	12	213	68	32	30	12	40	536	121	23
1904	171	15	9	362	18	5	197	63	32	210	6	3	442	161	36
1905	171	15	9	362	18	5	197	63	32	16	6	38	575	270	47
1906	148	20	14	461	37	8	120	39	33	21	2	10	441	145	33
1907	318	67	21	750	52	7	243	67	28	18	3	17	433	124	29
1908	193	1	1	371	23	6	288	136	47	8	1	13	378	27	7
1909	202	4	2	517	77	15	150	33	22	0	0		1186	563	47
1910	158	2	1	665	58	9	179	89	50	0	0		409	76	19
1911	189	3	2	669	119	18	111	32	29	0	0		574	158	28

1912	223	4	2	499	80	16	139	39	28	0	0		406	67	17
1913	214	2	1	605	94	16	169	70	41	0	0		629	75	12
1914	184	6	3	480	114	24	175	63	36	0	0		372	75	20
1915	228	4	2	497	112	23	217	91	42	0	0		258	35	14
1916	259	5	2	445	130	29	168	58	35	0	0		263	21	8
1917	124	1	1	401	107	27	133	40	30	0	0		402	35	9
1918	105	3	3	370	49	13	130	55	42	0	0		255	101	40
1919	65	5	8	373	108	29	118	46	39	0	0		275	131	48
1920	60	2	3	300	62	21	141	29	21	0	0		413	121	29
1921	97	6	6	471	65	14	206	68	33	0	0		550	130	24
1922	208	5	2	662	88	13	274	120	44	0	0		337	125	37
1923	148	12	8	987	93	9	477	100	21	0	0		453	18	4
1924	174	14	8	983	128	13	478	78	16	0	0		568	34	6
1925	271	22	8	800	114	14	564	136	24	0	0		493	79	16
1926	296	32	11	1103	102	9	640	108	17	0	0		426	17	4
1927	348	16	5	1463	124	8	819	151	18	0	0		587	11	2
1928	261	7	3	1472	173	12	873	176	20	0	0		581	45	8
1929	559	5	1	1502	180	12	923	184	20	0	0		457	34	7
1930	156	1	1	468	60	13	398	85	21	0	0		168	14	8
1931	105	3	3	301	32	11	328	46	14	0	0		84	4	5
1932	227	4	2	559	47	8	407	64	16	0	0		116	6	5
1933	243	4	2	704	29	4	369	55	15	0	0		175	11	6
1934	227	3	1	746	44	6	397	47	12	0	0		196	6	3
1935	206	5	2	587	33	6	334	34	10	0	0		169	7	4
1936	210	3	1	599	19	3	333	28	8	0	0		186	6	3
1937	151	2	1	445	24	5	270	25	9	0	0		158	12	8
1938	104	3	3	640	68	11	222	27	12	0	0		138	8	6
1939	116	0	0	757	89	12	283	77	27	0	0		556	169	30
1940	109	7	6	995	164	16	316	65	21	0	0		159	5	3
1942	120	2	2	1106	659	60	394	34	9	0	0		199	6	3
1943	125	7	6	814	491	60	211	47	22	92	4	4	0	0	
計	8368	384		29135	4794		13277	3212		534	67		17877	4198	
%			4.6			16.5			24.2			12.5			23.5

別表3　無試験検定の推移

	小本正			尋本正			小専正			小本准			尋本准		
	出願	合格	%	出願	合格	%	出願	合格	%	出願	合格	%	出願	合格	%
1895	71	34	48	33	6	18	2	0	0	5	5	100	33	29	88
1896	70	49	70	36	12	33	17	16	94	3	2	67	32	26	81
1897	76	41	54	40	18	45	49	49	100	12	4	33	131	122	93
1898	9	7	78	13	5	38	20	19	95	3	3	100	51	48	94
1899	62	54	87	16	12	75	19	17	89	3	2	67	22	20	91
1900	33	4	12	15	10	67	12	9	75	17	13	76	31	23	74
1901	6	4	67	12	8	67	2	2	100	24	24	100	15	10	67

1902	7	6	86	16	14	88	7	7	100	46	46	100	15	14	93
1903	15	15	100	16	16	100	2	2	100	62	62	100	10	10	100
1904	2	2	100	8	8	100	6	6	100	46	46	100	2	2	100
1905	2	2	100	8	8	100	6	6	100	46	46	100	2	2	100
1906	10	5	50	23	20	87	7	7	100	96	96	100	8	8	100
1907	18	7	39	23	19	83	13	4	31	67	66	99	14	14	100
1908	5	2	40	13	11	85	6	3	50	69	67	97	4	2	50
1909	4	2	50	40	36	90	13	10	77	96	94	98	7	6	86
1910	5	3	60	42	37	88	8	8	100	76	76	100	5	5	100
1911	21	15	71	28	24	86	12	6	50	55	54	98	6	6	100
1912	7	7	100	27	25	93	5	4	80	54	52	96	7	2	29
1913	10	3	30	23	18	78	4	2	50	27	20	74	2	1	50
1914	4	2	50	26	20	77	5	3	60	24	22	92	1	1	100
1915	5	0	0	38	34	89	6	3	50	30	30	100	0	0	
1916	20	2	10	112	104	93	88	86	98	26	25	96	2	0	0
1917	5	1	20	76	71	93	68	65	96	31	28	90	1	1	100
1918	0	0		122	119	98	77	72	94	67	64	96	4	1	25
1919	7	7	100	74	73	99	113	111	98	60	60	100	19	19	100
1920	0	0		39	1	3	67	20	30	47	47	100	37	31	84
1921	3	0	0	60	55	92	101	101	100	56	56	100	21	21	100
1922	5	2	40	34	31	91	41	26	63	84	65	77	19	11	58
1923	4	3	75	48	45	94	103	91	88	58	50	86	27	23	85
1924	9	4	44	135	52	39	280	165	59	50	36	72	50	12	24
1925	11	11	100	99	93	94	267	258	97	69	60	87	132	117	89
1926	23	20	87	187	261		518	504	97	197	195	99	123	120	98
1927	34	5	15	281	129	46	710	472	66	298	246	83	61	48	79
1928	132	77	58	137	123	90	483	468	97	307	307	100	134	133	99
1929	37	18	49	139	133	96	272	263	97	446	430	96	55	55	100
1930	83	26	31	163	96	59	474	370	78	401	401	100	104	89	86
1931	5	1	20	81	78	96	439	408	93	364	360	99	68	61	90
1932	6	2	33	79	76	96	401	393	98	418	417	100	56	54	96
1933	4	0	0	82	82	100	445	430	97	528	514	97	86	83	97
1934	9	1	11	70	62	89	428	400	93	493	491	100	101	100	99
1935	14	8	57	152	143	94	491	466	95	514	514	100	105	101	96
1936	6	0	0	114	110	96	441	424	96	435	429	99	73	70	96
1937	1	0	0	119	116	97	536	409	76	503	495	98	54	54	100
1938	24	13	54	187	176	94	563	552	98	507	505	100	72	69	96
1939	28	25	89	153	150	98	606	578	95	477	477	100	35	35	100
1940	74	51	69	442	418	95	557	544	98	565	557	99	112	111	99
1942	80	80	100	127	126	99	575	575	100	565	565	100	101	101	100
1943	25	24	96	290	282	97	88	76	86	10	8	80	0	0	
計	1091	645		4098	3566		9453	8510		8437	8232		2050	1871	
%			59.1			87.0			90.0			97.6			91.3

※注1　空欄は出願者がなかった。0%とは出願はあったが合格者がない場合である。
※注2　1926年の空欄は統計の記載ミスと思われ、%は削除した。

註

[1] 牧昌見（1971）『日本教員資格制度史研究』風間書店

[2] 船寄俊雄（1994）「教員養成史研究の課題と展望」『日本教育史研究』第13号、日本教育史研究会pp.83-84

[3] 佐竹道盛（1988）「森文政期における小学校教員学力検定試験の実態」『北海道教育大学紀要』第1部C、第39巻第1号

[4] 井上惠美子（2006）「平成14-17年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書　戦前日本の初等教員に求められた教職教養と教科専門教養に関する歴史的研究――教員試験検定の主要教科とその受験者たちの様態の分析――」

[5] 笠間賢二（2005）「小学校教員検定に関する基礎的研究――宮城県を事例として――」『宮城教育大学紀要』第40巻pp.229-243

[6] 佐藤幹男（1982）「戦前における教員講習の特質――師範学校における教員講習を中心として――」『東北大学教育学部年報』第30集pp.71-89

[7] 梶山雅史（1990）「京都府教育会の教員養成事業」本山幸彦編著『京都府会と教育政策』日本図書センター

[8] 梶山雅史編著（2007）『近代日本教育会史研究』学術出版会

[9] 笠間賢二　前掲

[10] 釜田史（2007）「明治前期秋田県における小学校教員検定試験制度に関する研究」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』第1巻第1号　など

[11] 山本朗登（2007）「明治期兵庫県における小学校教員検定試験制度の成立過程に関する研究」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』第1巻第1号　など

[12] 丸山剛史（2011）「戦前日本の小学校教員検定合格者数の道府県比較（Ⅰ）――試験検定・1900-40年――」『宇都宮大学教育学部紀要』第61号第1部

同　（2012）「戦前日本の小学校教員検定合格者数の都道府県比較（Ⅱ）――無試験検定・1900-40年――」『宇都宮大学教育学部紀要』第62号第1部

[13] 埼玉県立文書館所蔵　行政文書（大5264）「小学校教員検定内規改正ノ件両師範学校長及各郡長へ通牒」1918（大正7）年2月22日

[14] 井上えり子（2009）『「文検家事科」の研究――文部省教員検定試験家事科合格者のライフスヒストリー』学文社pp.226

[15] 山本朗登（2014）「兵庫県における小学校教員検定制度についての一考察」丸山剛史『平成23年度～平成25年度科学研究費補助金基礎研究（C）研究成果報告書　戦前日本の初等教員養成における初等教員検定の意義と役割に関する通史的事例研究』

参考文献

学制百年史
埼玉県教育史
埼玉県統計書
新編埼玉県史別編
文部省年報

The study on Official Certification of an Elementary School Teacher in Saitama Prefecture before World War Ⅱ

FURUKAWA, Osamu

Abstract

The purpose of this paper is to clarify the official certification of elementary school teachers in Saitama Prefecture before World War II. Historical records used are Ministry of Education annual report and Saitama statistics manual.

The findings are as follows.

1, As the normal school graduates increase, official certificates were getting more difficult. Therefore, those who pass by official certification without exam was increased.

2, Large number of licensees by official certification without exam was the alumni of the girls' school. Because, they were able to obtain a license ("Sho-Sen-Sei" or "Sho-Hon-Jun") by graduation. However, it is doubtful whether it was able to get a teaching profession because too many licensees.

3, "Sho-Hon-Sei" license test was as low as 4.6% pass rate, and licensees number with official certification without exam were small. A little less than 90% of "Sho-Hon-Sei" license holders occupied by the normal school graduates. In this way, elementary school teachers society had been maintain a configuration in which an apex the normal school graduates.

Key word : Elementary school education, Elementary school teacher, Teacher training, Educational certification